

府中の森
芸術劇場

35th
Anniversary

〔解説〕 葛西聖司
〔狂言〕 野村萬斎(朝の部)・野村裕基(昼の部) ほか
〔能〕 観世喜正(朝の部)・中森貫太(昼の部) ほか
〔質疑応答〕 中森貫太

府中の森芸術劇場開館35周年記念

能・狂言

〔解説字幕付き〕
朝昼2回公演

演目

解説 解脱の喜び 夫婦の愛

狂言 茶壺

能 現在七面



野村裕基



野村萬斎



中森貫太



観世喜正



葛西聖司

2027

1.16

土

朝の部 10:00 開演
昼の部 14:00 開演

府中の森芸術劇場 ふるさとホール

Fivo Plus会員割引対象公演

全席指定

¥4,500

※小学校入学前のお子様の入場はご遠慮ください。

予約開始日 **Fivo Plus会員** 10月4日[日]

Fivo Free会員 10月7日[水]

一般

10月10日[土]

※予約開始日は10:00～
予約開始日は店頭での販売はありません。

チケットお申込み

■ **Fivo** (パソコン・スマホ)

[24時間受付 ※予約開始日は10:00～]

※ご利用には会員登録が必要です。

※チケット料金のほかに手数料がかかります。

Fivo

検索



■ チケットふちゅう 042-333-9999

[10:00～17:00 ※劇場休館日は休業]

※Free会員は一般予約開始日よりご利用いただけます。

■ チケットぴあ

<https://t.pia.jp>

[Pコード543-691]



八王子 立川 武蔵小金井 吉祥寺 JR中央線 新宿
京王八王子 分倍河原 府中 東府中 明大前
●新宿から京王線で約30分、東府中駅北口下車、徒歩約7分
●JR中央線武蔵小金井駅から
・東府中駅行バス(一本木経由)第二小学校下車、徒歩約7分
・府中駅行バス(一本木経由)第二小学校下車、徒歩約10分
・南口からタクシーで約15分
※ご来場の際は電車・バスをご利用ください。

〔主催〕

公益財団法人府中文化振興財団

府中の森芸術劇場

<https://www.fuchu-cpf.or.jp/theater/>

▼ホームページ



@fuchu_theater



@FuchuTheater



狂言

ちゃつぽ

「茶壺」あらすじ

とがのお

梅尾で茶を買い求めた男が、途中立ち寄った宿で酒を振舞われ、すっかり酔っ払って茶壺を背負ったまま街道で寝込んでしまう。そこへ通りかかったすっぱが茶壺を盗もうと、さも自分が茶壺を背負っていたかのように見せかけて背中合わせに横たわる。目が覚めた男とすっぱがそれぞれに茶壺は自分の物だと言い争うところへ、目代(代官)が通りかかり、二人の言い分を聞くのだが、どちらとも判断がつかない。そこで目代は…。

能

げんざいしちめん

「現在七面」あらすじ

日蓮上人(ワキ)は甲斐国身延山に籠もり、法華経を読誦して礼讃に励んでいた。近頃毎日、上人のもとを訪ね、仏に花水を捧げる女(前シテ)がいる。ある日、上人が女に身分を尋ねるも、このあたりに住む者と答えるのみである。また、女は結縁の為に歩みを運ぶのだと言い、上人に女が成仏するいわれを望む。上人は問われるまま、外面如菩薩内心如夜叉【げめんによばさつないしんによしゃ】の言葉を引き、事細かに女人の罪業を説き聞かせる。さらに法華経の功德を述べ、龍女成仏の奇特を語ると、女は喜び、自分も三熱の苦しみを免れると言う。上人が素性を尋ねると、女は七面の池に住む蛇身だと明かし、報謝の為に再来すると言い残し、轟く雷雨の中に消え失せる。(中入)上人が読誦を続けていると、大蛇(後シテ)が現れ慚愧懺悔の様子を示す。さらなる読誦と上人の法力により、蛇身はたちまち女人となり、報謝の神楽を舞う。そして、龍女はこの山の守護神となって七福即生【しちふくそくしょう】の願いを満たす事を約束し、空の彼方に姿を消す。



なかもり かんた

中森 貫太

1961年神奈川県生まれ。東京芸術大学音楽学部邦楽科別科終了。シテ方観世流。(公社)日本能楽会会員(重要無形文化財総合指定)。(公社)能楽協会会員。(公財)鎌倉能舞台業務

理事。(公社)観世九阜会メンバー(観世喜之師に師事)。鎌倉能舞台創設者の故 中森晶三の長男。鎌倉能舞台「能を知る会」主宰。一般向けにわかりやすい字幕解説付きの能楽公演「字幕e能」を発案、子供向けの能楽鑑賞教室など多数行っており、能楽の普及と振興に力を入れている。東アジア文化都市2025鎌倉市では、韓国の安城市開幕式と閉幕式で能の公演を行った。

<http://www.nohbutai.com/> (鎌倉能舞台HP)



かんぜ よしまさ

観世 喜正

1970年東京生まれ。慶応大学法学部卒業。父・観世喜之に師事。シテ方観世流。(公社)日本能楽会会員(重要無形文化財総合指定)。(公社)能楽協会会員。(公社)観世九阜会 理事長。東京を中心に、全国の公演、海外公演に多数出演。普及活動や講演も多く行う。著書「演目別に見る能装束」(淡交社)。

<https://yarai-nohgakudo.com/> (観世九阜会HP)



のむら ゆうき

野村 裕基

1999年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。3歳の時に『靉猿』で初舞台後、

子方として国内外を問わず多数の舞台に出演。すでに『三番叟』、『奈須与市語』、22年に『釣狐』を披き、「万作の会」の若手狂言師の一人として舞台を勤めている。能楽協会会員。



のむら まんさい

野村 萬斎

1966年生。東京芸術大学音楽学部卒業。和泉流狂言方。(公社)日本能楽会会員(重要無形文化財総合指定)。(公社)能楽協会会員。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台をはじめ、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。著書「萬斎でござる」「狂言サイボーグ」

「What is 狂言?」など。

<https://mansaku.co.jp/> (万作の会HP)



かさい せいじ

葛西 聖司

古典芸能解説者。NHKアナウンサー時代の経験を生かし、能や歌舞伎、文楽、日本舞踊など古典芸能についての解説や講演

を行っている。早稲田大学やNHK文化センターなどで講座を担当。著書に「教養として学んでおきたい能狂言」「名セリフの力」「文楽のツボ」など多数。日本演劇興行協会理事。